



『私の歩む道』

神奈川県川崎市

剣桜会

中学2年生

館岡夢華

剣道は武士道なり。

「礼に始まり、礼に終わる。」

礼儀を大切にし、相手を思いやる心を大切にする。そんな剣道が、私は大好きです。

しかし、中学生になってから、毎日の部活や道場での稽古、休日も遠征稽古や試合で、生活の全てが剣道でした。部活での稽古では、顧問の先生から、「もっと声を出せ。そんな剣道だから勝てないんだ。」と怒鳴られます。そして、試合で勝てない時は、身も心もへこむほど叱られます。常に勝ちが求められるのです。「もちろん、私も試合では勝ちたい。部活の仲間との目標の、関東大会にも出場したい。」しかし、試合で勝つ為だけの稽古は、あまり好きではありません。

父と稽古をしていると、「剣道は心だ。相手の心を打たないとダメなんだ。自分が打って当たった事より、相手が心から参ったと思うような一本を心がけなさい」と指導を受けました。父の言う「心の剣道」とは、なんとなく分かりますが、心で打ったかは、目に見えないですし、審判も分かるのでしょうか。勝つ事ばかりを求める剣道と、相手の心を打つ剣道。私の求める剣道とは、一体何か分からなくなりました。試合では、得意の返し胴も中々決まらず、面を打てる勇気もありません。あせって小手を打つと姿勢がくずれてしまいます。自分の剣道を見失い、思う様に勝てない日々が続きました。

悩み続ける中、初段の審査を受けるため、剣道形の稽古をする機会が増えました。試合から気持ちが悪く逃げたため、新鮮な気持ちで稽古に取り組みました。「よし、この審査では、心を込めた剣道形をしよう。」と一つ一つの所作や動作をていねいに稽古しました。すると、ある事に気付いたのです。「剣道形の1本目は、相手の面を打ちおとし、2本目は小手を打ち、相手を戦えなくします。しかし、3本目の突きは、相手に『突くぞ』との心を見せて、突かずに残心となります。」この時、私は思いました。「斬らなくても良いんだ。一本にしなくても良いんだ。この様な剣道ってすごく格好良い。相手を殺さず、傷つけずに戦いを収める。まさに『武士の究極』ではないか。」と思いました。

その時、ある剣道小説の一説が私の頭をよぎりました。それは、「武者の生業は戦う事、武士の生業は戦いを収める事。」武者は相手を斬り、勝つ事だけが目的で戦います。しかし武士は、勝利した数よりも一つ一つの戦いをどの様にして収めたのかを重視するのです。「そうか、剣道も勝つ事だけが目的で戦うのは、武者なんだ。私は武者とは違う。私の求める剣道は、一つ一つの戦いをどの様にして収めたのかを重視する、まさに武士はなのではないか。」と思いました。

この時、悩み続けていた剣道への思いが変わり始めました。それは、勝つ事ばかりだけではなく、相手の心を攻め、相手の心を打ち、相手が心から参ったと感じる様な剣道がしたいと思う様になったのです。これこそが、父が私に教えてくれた、「相手の心を打つ剣道」なのだと思います。そして、相手の心を大切にすると、稽古の中でも「打って反省、打たれて感謝」の心が持てる様になりました。打てた時は満足せず、さらに反省をして、自分を高めます。打たれた時は、自分の弱い所を教えて頂いたので、けんきよな気持ちで受けとめます。また、いつも相手が居て稽古が出来る事に感謝したいと思わず。

私の目指す剣道は、武士として勝つ事だけではない、相手を思いやる事や、礼儀を大切にする事です。学校生活や人生においても、相手を思いやる心を大切にしていきたいです。そして、武士道としての剣道を誇りに思い、私は剣道と共に、人として成長していきたいと思えます。

私の歩む道、それは武士道なり。